

第46回子ども郷土研究の入賞作品を紹介します

子ども郷土研究は、調査・研究を通して郷土の歴史や文化について関心を持ち、郷土「つちうら」への理解を深めることを目的に実施しています。「論文の部」と「新聞の部」、それぞれで最優秀賞に選ばれた作品を紹介します。

☎上高津貝塚ふるさと歴史の広場(☎826-7111)

最優秀賞

論文の部	上高津貝塚で作られていた塩にはどのような役割があったのだろうか	荒川沖小	4年	滝澤 有紗さん
新聞の部	土浦市の古墳 武者塚古墳	荒川沖小	4年	長谷川 凜音さん

優秀賞

論文の部	秘密発見! 僕の町天禄稻荷神社	神立小	4年	武藤 楓汰さん
	神秘の地 ~小野小町の里~	土浦五中	7年	折本 霞奈さん
新聞の部	調べてみたよ! 帆引き船	都和小	4年	遠野 唯汰さん
	土浦城の歴史大調査!!	荒川沖小	4年	岡田 怜子さん 岡田 悠佑さん
	ほびき新聞	荒川沖小	4年	高間 喜士郎さん
	真鍋の桜からたどりついた 実は知らない校章のヒミツ	神立小	4年	栗原 陽鞠さん

優良賞

新聞の部	土浦歴史新聞 一霞ヶ浦の今と昔一	都和小	5年	石川 楓さん
	土浦を水害から救った偉人『土浦の水害、今昔』	神立小	6年	武藤 平汰さん
	自然の水と共存する城 ~土浦城~	土浦五中	7年	吉田 華さん
	『身近にある』土浦の歴史新聞	土浦五中	7年	佐久間 柊英さん
	名産物新聞	土浦五中	7年	猪瀬 美和子さん

学校賞

荒川沖小学校

上高津貝塚ふるさと歴史の広場

開館時間 午前9時~午後4時30分

休館日 月曜日

入館料 一般…105円(75円)

小・中学生、高校生…50円(30円)

※20人以上の団体は1人()内の金額です。

※土曜日は小・中学生、高校生は入館無料です。

※作品展示の見学のみの場合、入館料は無料です。

応募されたすべての作品は、12月17日(日)まで上高津貝塚ふるさと歴史の広場で展示しています。ぜひご覧ください。



上高津貝塚マスコット モン太

論文の部
最優秀賞

上高津貝塚で作られていた塩には どのような役割があったのだろうか

荒川沖小 4年 滝澤 有紗

◆研究の動機

少し前に、「三内丸山遺跡」の話題が出て、縄文時代の遺跡を見る機会がありました。大昔にそこに大きな村があり、大きな建物を建てていたことに感動しました。私の住んでいる土浦市にも縄文時代の遺跡である「上高津貝塚」があることを知り、ぜひ調べてみたいと思いました。また、調査にあたって、長い縄文の歴史の中で時代差や地域差もあるのかということも一緒に考えてみたいと思います。

◆調査方法

- (1) 本や資料を使って調べる
- (2) 2つの遺跡に足を運び、遺跡の見学と各しせつの学芸員さんへのインタビューをする
- (3) しせつ発行の資料をいただく
- (4) 「上高津貝塚ふるさと歴史の広場」主さいの体験講座に参加する

◆調査からわかったこと

(1) 一ぱん的な縄文文化とはどのような文化なのか

人びとは狩りょう・漁ろう・植物性食物のさい取をしていました。重要な位置をしめたのが植物性食料のさい取活動でした。食料のかくとく法が多様化したことで、縄文の生活は安定し定住ができるようになりました。

(2) 「上高津貝塚」とはどのような遺跡か

「上高津貝塚」は縄文時代後晩期(約4～3千年前)につくられた関東地方でも有数の大規模貝塚です。霞ヶ浦は、当時は太平洋とつながった入江になっていたそうで、「上高津貝塚」の縄文人は、この入江からの恵みをたくさん利用して生きていました。「塩作り専用の土器」が発見されたことで、この土地で「塩作り」をしていたということがわかるのが、最大の特ちょうです。取れた塩は、自分たちの料理で使いましたが、別の村の特産物との交かんにも使いました。



上高津貝塚の塩作りの土器

(3) 「三内丸山遺跡」との比かく

「三内丸山遺跡」は、特別史跡に指定された大規模集落跡です。年代は縄文時代前期～中期(紀元前3900年～2200年)のもので、特ちょうは「植物さいばい」をしていたことがあげられます。その中でも特に注目されている植物は「クリ」です。三内丸山遺跡のクリの森は自然にできたものではなく、人々が「クリ」を利用するために管理して作った森であることが研究から分かっています。



三内丸山遺跡

◆考察・感想

2つの時代の遺跡を調べてみましたが、同じ条件では、比かくできません。でも、たくさんの共通点を見つけることができました。

それは、2つの遺跡に住んでいた人たちは身近な地形に着目して人が工夫をすることで欲しいもの(塩・クリ)を手に入れたことです。縄文時代の人たちは「食べることをとても大切に思っていて、文字のない時代なのに、長い間、同じじじゅつが続けられていたのは、当時の人々が「わざを伝える」ということも大切に考えていたということがわかりました。そういう考え方は、長い縄文の歴史の中で時代差や地域差はないと考えました。

それから、現代に生きている私たちとの共通点もあると思いました。縄文時代の人たちは干してほかんしておいて、後で食べなくなった時に食べたり、「大きなクリの実が食べたい」と感じたりするのは、私たちと変わらないと思いました。

また、上高津貝塚の塩については、自分たちで食べるためだけでなく、交易に利用していたというのは、今でいう「特産物」という考え方に似ているのではないかとも思いました。昔も今も、特産物を有名にして交流したいという気持ちは同じなのかもしれないと感じました。

上高津貝塚で作られていた塩は、「おいしく食べるため」「いろんな人と知り合うため」という役割をはたしていたということがわかりました。

※一部省略して掲載しています。全文は上高津貝塚ふるさと歴史の広場をご覧ください。



土浦市の古墳 武者塚古墳

荒川沖小 4年 長谷川 凜音

土浦市の古墳

武者塚古墳

令和5年8月

土浦の縄文時代
歴史大発見
荒川沖小 4年 長谷川 凜音

古墳とは？
古い墓・古人の墓を意味する。
つまり昔の人のお墓です。



武者塚古墳といえは……

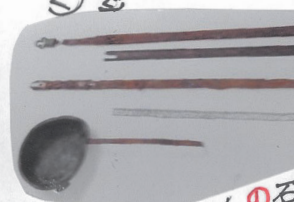
国指定重要文化財!!!

①美豆良(みずら)古墳時代の人の結われた長髪のもです。実物が発見されたのは武者塚古墳が初めてです。



②ガラス製衣小玉、水晶製衣切り玉、水晶・碧玉・ウ製勾玉(まがたま) 2人の遺体の周りに出土しました

- ◎その他(たにしき)
- ◎経錦(たにしき)
- ◎銅製三累環頭大刀
- ◎銀装主頭大刀
- ◎大刀(たち)
- ◎鉄柄銅杓(てつえいしやく)
- ◎鉄鉢(てつぱん)



実物の写真(美豆良)



実際見えてきた武者塚古墳 令和5年8月15日 見学

古墳の立地
桜川左岸の標高約29mの新治台地上に造られた古墳です。

1989年に武者塚古墳が発掘調査された時、すでに墳丘は平らな状態でした。周溝の状態から一辺約22.5mの方墳と推定されます。



実際見えてきた箱形石棺

武者塚古墳は石材の間の粘土の目張りかよんでできていたため、土が流れこまなから大変重なりが数多く残っていました。

武者塚古墳は、実際の古人の髪のもが初めて出土されたこと知りおどろきました。実際に武者塚古墳を見ることができたが石棺が大きくて、はたと思いました。これからは土浦のみならず、調べて見たいです。

調べれば調べるほど楽しくなります。

